

民主化闘争情報

No. 1012

2018年12月11日

発行 日本鉄道労働組合連合会

(JR連合)

12月1日、JR連合に加盟するジェイアール・イーストユニオン（JREユニオン）仙台地本は、盛岡支社管内において1名を新たな仲間として迎え入れた。今回の拡大は、本人がJR東日本労使の昨今の情勢から将来不安を抱く中、「より良い会社、お客様にさらにお喜びいただけるサービスを提供するためには、自由にして民主的な労働組合が必要不可欠である」という強い意志を持ち、JR連合・JREユニオンと共に歩いていくことを決断したものだ。

ジェイアール・イーストユニオンに新たな仲間が加入

東北エリア・盛岡において

単独での勇気ある決断！

東北エリアに目を向ければ、不穏な動きが活発化している。関係者や、関係労組が発行している情報紙等からの情報によれば、「JR東労働組合（以下、『JRひがし労』＝JR東労組高崎地本からの脱退者で結成された新組合）」の役員が東北エリアに入って勧誘行動を行い、これに呼応する形でJR東労組脱退者の一部が、職場でJRひがし労への加入を促す動きをしていたようだ。

因果関係は不明だが、10月11日、JR東日本仙台支社は総務部長名で『職場規律の厳正について』なる文書を発出、「同支社管内の職場内或いは勤務時間中に特定の労働組合への勧誘が行われている」という相談が寄せられたことに対し、「職場規律を乱し、社員を不安に陥れるこのような行為は到底看過できるものではありません」と、毅然とした意思表示を行っている。

JR東労組は、JRひがし労の動きに対し、『組織破壊策動を許さない！！』なる見だしの情報紙（10/23付「緑の風FAX版No.44」）を発信し批判を展開したが、JRひがし労はすぐさま「他の組織の批判をする前に、今もなお激化している内部の組織混乱の収束に力を注ぐ方が先決だと思います」などと挑発・牽制。激しい応酬を見せていた（10/24付「情報ひがし労第19号」）。こうした中、JRひがし労は11月23日に第2回臨時大会を開催し、山形を中心にJR東労組脱退者らを組織拡大した模様である。JR東日本労働界はますます混迷を深めていく…。

JRグループの発展のためには、真に民主的で建設的な活動を行う労働組合が必要！

今後、働き方改革や新技術の活用など、働く者の環境は大きく変化していく。JRグループの健全な発展、働く者の明るい未来を創造するためには、民主的な労働組合・労使関係が必要不可欠である。JR連合・JREユニオンは未加入者をはじめ多くの仲間を結集を呼びかけ、組織強化・拡大につなげていく！

今こそJR連合・JREユニオンに結集しよう！！